

# 株式会社アーレスティ

## 2013年3月期 決算説明資料



2013年5月30日

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。

### ご説明内容

- ◆ TOPICS
- ◆ 2013年3月期決算概況
- ◆ 今期の見通し
- ◆ 中期経営計画(2013－2015年度)

# TOPICS

## ■2012年

- 4月 合肥アーレスティ加工工場完成
- 5月 広州アーレスティ隣接地での工場建設第1期工事着工
- 10月 アーレスティメヒカーナ鋳造、加工工場拡張工事竣工
- 12月 合肥アーレスティ拡張工事着工  
隣接預留地20,500㎡を取得



アーレスティメヒカーナ拡張工事箇所



広州アーレスティ第1工場、新工場の全景と拡張工事箇所

## ■2013年

- 1月 アーレスティメヒカーナ金型工場拡張工事竣工
- 3月 旧浜松工場の旧豊橋工場へ(東海工場)の集約完了
- 4月 広州アーレスティ隣接地での工場建設第1期工事竣工  
アーレスティウilmington増築工事着工



合肥アーレスティ拡張工事箇所

## 今後の予定

- 6月 アーレスティウilmington増築工事竣工予定  
合肥アーレスティ拡張工事竣工予定



# アーレスティウilmington工場拡張

## Ahresty Wilmington Corp.

### ■工場拡張工事

2013年4月着工  
6月中旬竣工予定

※倉庫、出荷準備のスペースを新たに確保し、  
既存の工場内に鋳造機及び加工ラインを増設。



### 2013年5月現在

(工場面積)	土地 170,000㎡	建屋 30,180 ㎡
(拡張面積)		建屋 約2664㎡
(主要設備)	ダイカストマシン: 22台	機械加工ライン: 34ライン
(今回増設分)	ダイカストマシン: 4台	機械加工ライン: 4ライン
(鋳造能力)	月産1,500t	※増設後: 月産1,800t



# 2013年3月期決算概況



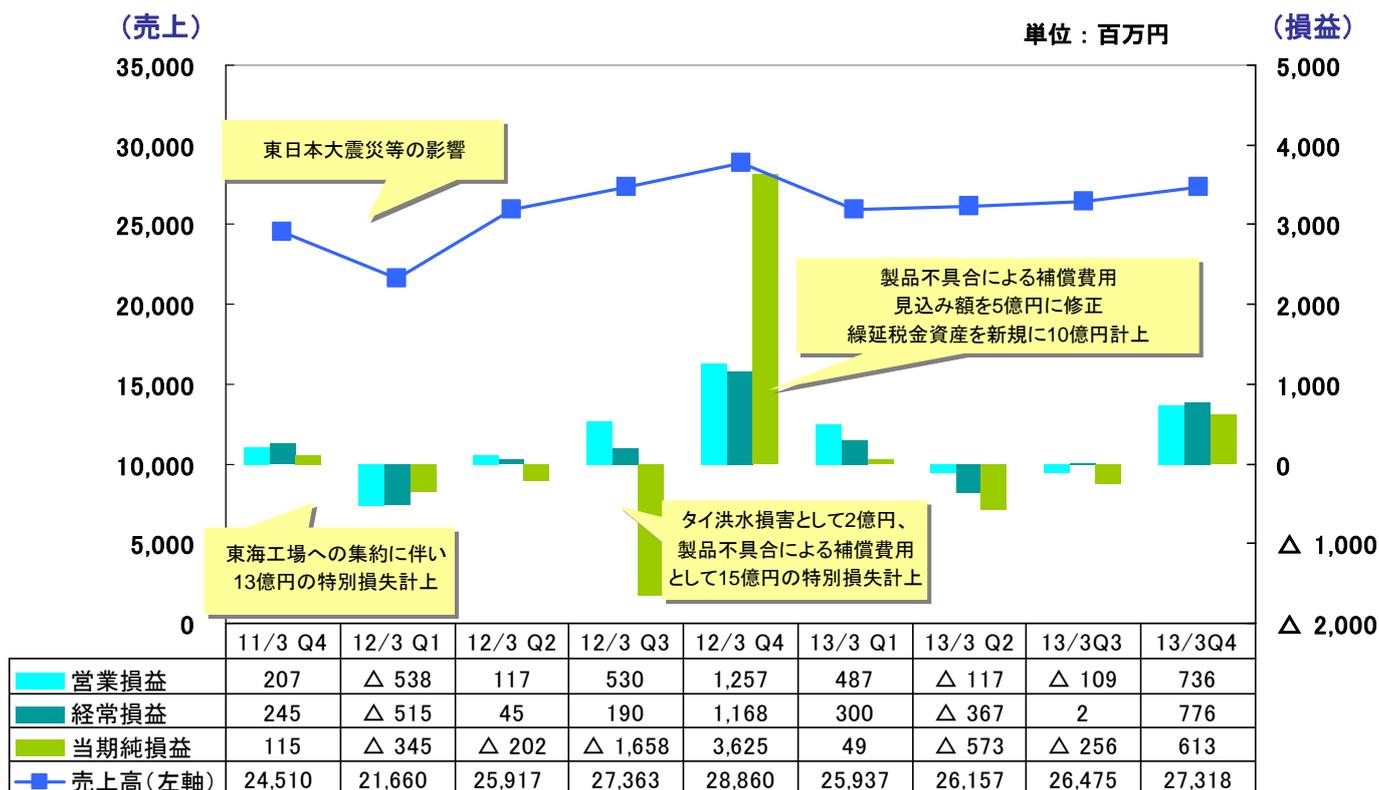
## 2013年3月期 決算のポイント

(単位: 百万円)

	2012年3月期		2013年3月期		増減	
売上高	103,800	100%	105,887	100%	2,087	2.0%
営業利益	1,366	1.3%	997	0.9%	△ 369	△27.0%
経常利益	888	0.9%	711	0.7%	△ 177	△19.9%
当期純利益	1,420	1.4%	△ 167	△0.2%	△ 1,587	△111.8%
EPS	65.87		△ 7.76		△ 73.63	△111.8%

- ◆ 売上高: 国内における震災復興需要、震災後に減少した北米主要顧客からの受注回復、アジアにおける新拠点の操業と既存拠点での受注増加があったものの、世界景気の減速などを背景とした国内における輸出向け製品の受注減少などの影響により、売上高は1,059億円(前期比2.0%増)に留まった。
- ◆ 営業利益: 北米での受注増はあったものの、国内売上高の減少、日中問題による9月以降の中国での売上減少の影響、アジアでの先行投資による固定費の増加の影響で、営業利益は10億円(前期比27.0%減)となった。
- ◆ 経常利益: 前期は営業外費用として為替差損187百万円を計上したが、今期は営業外収益として為替差益351百万円を計上していることが、今期と前期の営業外収支の主な差異である。
- ◆ 当期純利益: 増減の主な理由は、前期にタイの洪水損害及び製品不具合の補償費など特別損失864百万円を計上、また繰延税金資産の計上等により、法人税等調整額△2,098百万円を計上していることによる。

# 連結決算概要(四半期別)



## ダイカスト事業

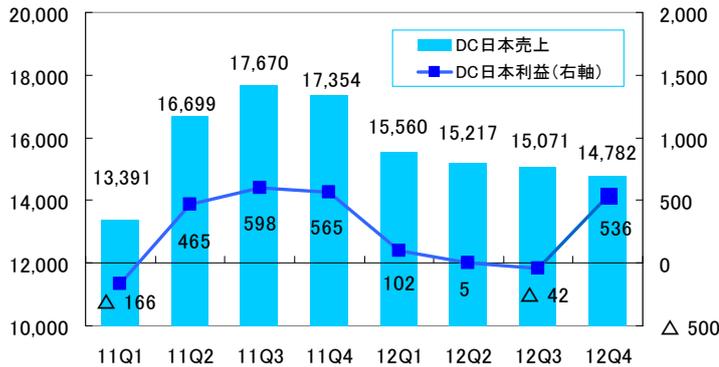
(単位：百万円)

		2012年3月期	2013年3月期	増減	
日本	売上	65,114 100%	60,630 100%	△ 4,484	△ 6.9%
	セグメント損益	1,463 2.2%	601 1.0%	△ 862	△ 58.9%
北米	売上	18,761 100%	22,886 100%	4,125	22.0%
	セグメント損益	314 1.7%	744 3.3%	430	136.7%
アジア	売上	13,723 100%	16,736 100%	3,013	22.0%
	セグメント損益	△ 504 △ 3.7%	△ 521 △ 3.1%	△ 17	-

※ セグメント別の増減要因については、次ページ以降で説明。

# ダイカスト日本

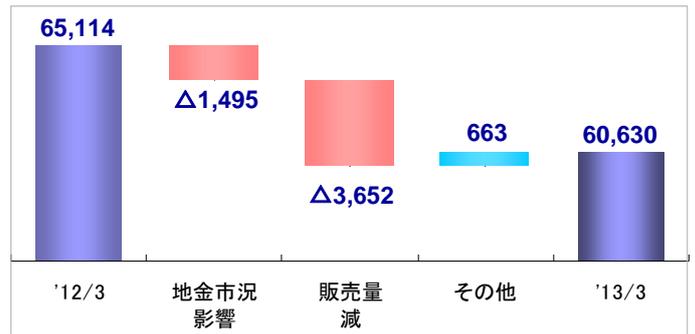
ダイカスト日本売上高/セグメント損益の推移 (百万円)



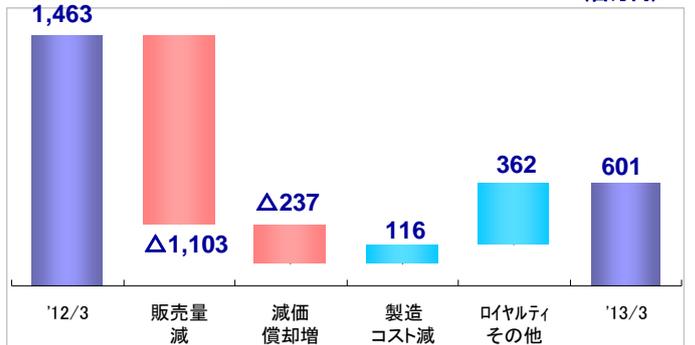
震災復興需要及びエコカー補助金の効果により上期は生産増となったものの、下期は補助金の終了及び自動車輸出減少の影響により受注が減少し、売上高は606億円(前期比6.9%減)となった。

セグメント利益は、販売量減少の影響が大きく、また、中期的な売上減少を見据えた東海工場集約に伴う一時的費用増(計画比)の影響等により、6億円(前期比58.9%減)に留まった。

売上高増減要因 (百万円)



セグメント損益増減要因 (百万円)



# ダイカスト北米

ダイカスト北米売上高/セグメント損益の推移 (百万円)



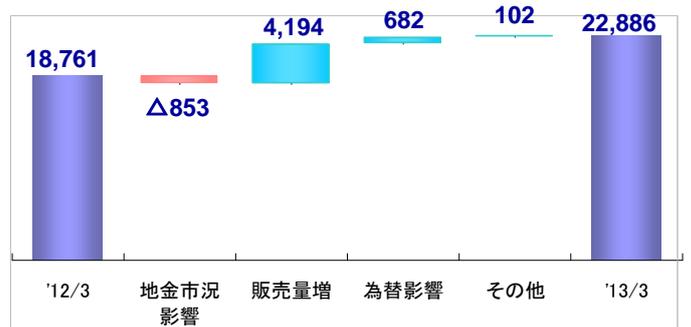
アメリカ: 穏やかな景気回復の下、好調な自動車販売から受注が増加。4Q以降の増産に備えた3Qでの先行的な固定費増に伴う一時的な利益率の低下はあったものの、業績は堅調に推移し、利益も増加。

メキシコ: 10Q4から発生していた生産対応の遅れの挽回に伴う費用を削減したこと等により損失の縮小を図った。これからの増産に向けて、更に改善していく。

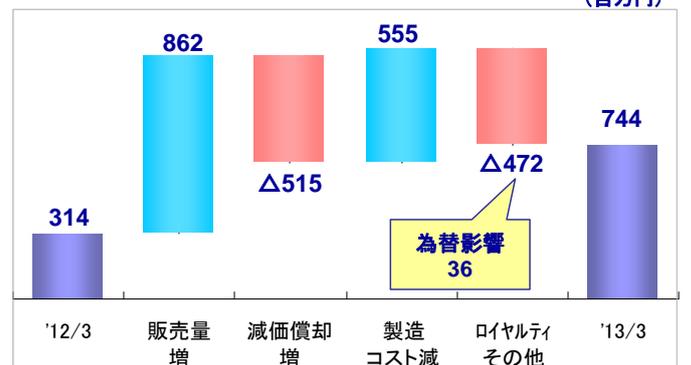
※アメリカ 4-3月  
メキシコ 1-12月

平均レート(12/3→13/3)  
米\$ 79.14→83.23  
¥シコ(米\$)79.61→79.93

売上高増減要因 (百万円)

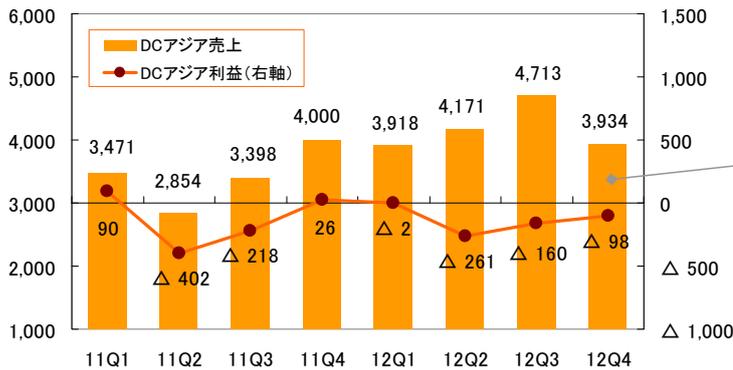


セグメント損益増減要因 (百万円)



# ダイカストアジア

ダイカストアジア売上高／セグメント損益の推移 (百万円)



売上高増減要因 (百万円)



セグメント損益増減要因 (百万円)



中国: 合肥工場の稼働開始に加え、広州工場での新規製品の量産本格化により受注は増加するも、日中問題に起因する4Qの売上減少により売上高は当初計画に至らず。この4Qの売上減の利益影響(約6億円減)、及び合肥工場への先行投資による固定費負担増はあったが、中国の収益は増益となった。

インド: 売上高は増加するも想定を下回っており、減価償却費負担増、エネルギー費増等の影響で損失が増加。

平均レート(12/3→13/3)  
 人民元 12.31→12.69  
 インドルピー 1.67→1.54

※中国1-12月  
 インド4-3月

# アルミニウム事業及び完成品事業

(単位: 百万円)

		2012年3月期		2013年3月期		増減	
アルミニウム事業	売上	3,744	100%	3,840	100%	96	2.6%
	セグメント損益	△42	△1.1%	50	1.3%	92	-
完成品事業	売上	2,455	100%	1,793	100%	△662	△27.0%
	セグメント損益	72	2.9%	78	4.4%	6	8.4%

アルミニウム事業: 受注量は年間を通じて横ばいで推移し、売上高は38億円(2.6%増)。円高等による価格低迷はあったものの原価低減活動による効果により、セグメント利益は、0.5億円(前期は0.4億円の損失)

完成品事業: 国内シェアは増加したものの、主要販売先である半導体関連企業の設備投資と通信会社のデータセンター向け物件の低調により、売上高は18億円(前期比27.0%減)となった。セグメント利益は、売上減少の影響はあったものの原価低減活動の効果により、0.8億円(前期比8.4%増)となった。

# 貸借対照表

(単位：百万円)

	2012年3月期	2013年3月期	増減
<b>流動資産</b>	<b>44,486</b>	<b>37,153</b>	<b>△ 7,333</b>
現預金	7,358	6,087	△ 1,271
売上債権	24,541	18,620	△ 5,921
棚卸資産	8,636	9,417	781
<b>固定資産</b>	<b>60,721</b>	<b>73,599</b>	<b>12,878</b>
有形固定資産	54,135	65,150	11,015
<b>資産合計</b>	<b>105,208</b>	<b>110,752</b>	<b>5,544</b>
<b>負債合計</b>	<b>69,794</b>	<b>71,416</b>	<b>1,622</b>
買入債務	18,653	16,001	△ 2,652
長短借入金	33,348	38,662	5,314
<b>純資産合計</b>	<b>35,414</b>	<b>39,335</b>	<b>3,921</b>

◆ 現預金の減少、売上債権の減少(債権流動化含む)により流動資産が減少

◆ 主に海外での事業拡大投資より有形固定資産が増加

◆ 営業CFを超える投資資金を現預金の減少と借入金で調達

◆ 為替換算調整勘定の増加、有価証券評価差額金の増加により純資産が増加

## 今期の見通し



# 2014年3月期業績予想

(単位:百万円)

	2013年3月期		2014年3月期 計画		増減	
売上高	105,887	100%	119,500	100%	13,612	12.9%
営業利益	997	0.9%	2,250	1.9%	1,253	125.6%
経常利益	711	0.7%	1,500	1.3%	789	110.8%
当期純利益	△ 167	△0.2%	2,750	2.3%	2,917	-
EPS	△ 7.76		127.53		135.29	-

- ◆ 売上高: 国内は前期よりも更に減収を予想、一方海外は全ての拠点において受注増により増収を予想。
- ◆ 営業利益: 国内は減収を予想するも、減価償却費の減少、労務費の減少等により増益を予想、海外では主に増収に伴う増益を予想。なお、2014/3月期より減価償却方法を変更、この影響で減価償却費が従来方法に比べ約8億円減少。
- ◆ 経常利益: 予想には為替差損益は加味していない(13/3月期の為替差益は351百万円)。
- ◆ 当期純利益: 旧浜松工場跡地売却による約19億円、投資有価証券の一部売却による約8億円を特別利益として織り込み。

前提為替レート: 92円/米ドル、14.5円/人民元、1.7円/インドルピー



15

# 2014年3月期業績予想

(単位:百万円)

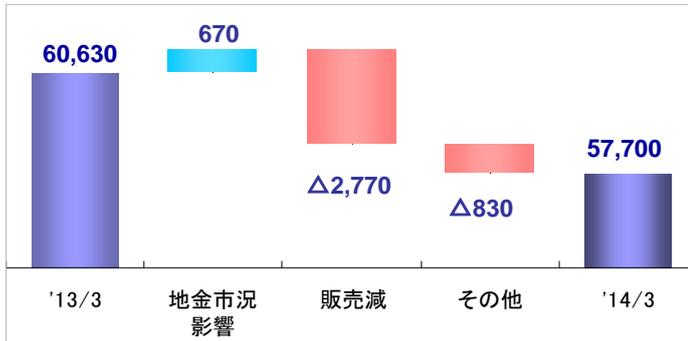
	2013年3月期 実績	2014年3月期 計画	増減	増減率
売上高	105,887	119,500	13,613	12.9%
ダイカスト日本	60,630	57,700	△ 2,930	△4.8%
ダイカスト北米	22,886	31,200	8,314	36.3%
ダイカストアジア	16,736	24,700	7,964	47.6%
アルミニウム	3,840	4,100	260	6.8%
完成品	1,793	1,800	7	0.4%
営業利益	997	2,250	1,253	125.6%
ダイカスト日本	601	1,450	849	141.3%
ダイカスト北米	744	850	106	14.2%
ダイカストアジア	△521	△150	371	-
アルミニウム	50	50	-	-
完成品	78	50	△28	△35.9%
経常利益	711	1,500	789	110.8%
当期純利益	△167	2,750	2,917	-



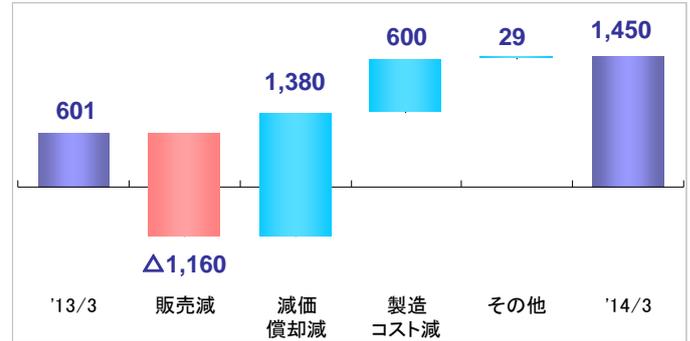
16

# ダイカスト日本

売上高増減予測 (百万円)



セグメント損益増予測 (百万円)

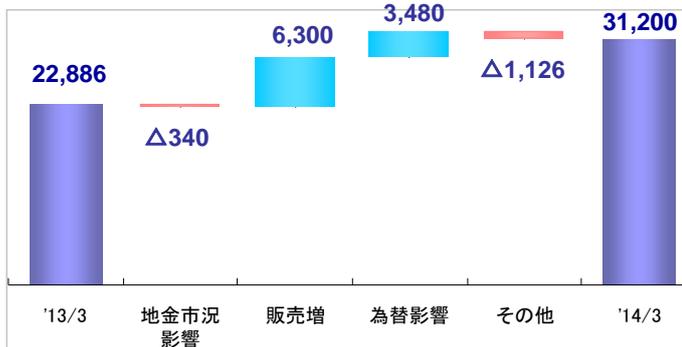


国内ダイカスト需要は減少するものと想定。基本は顧客からの情報をベースに売上高を予想。

各国内工場では、売上減少に対応した収益改善施策を計画。なお、東海工場の集約・再編については、13/3月末で旧浜松工場での生産を終了しているものの、残存設備の移設・売却等が残っており、集約の効果が具体化するのは2Q以降。

# ダイカスト北米

売上高増減予測 (百万円)



セグメント損益増予測 (百万円)

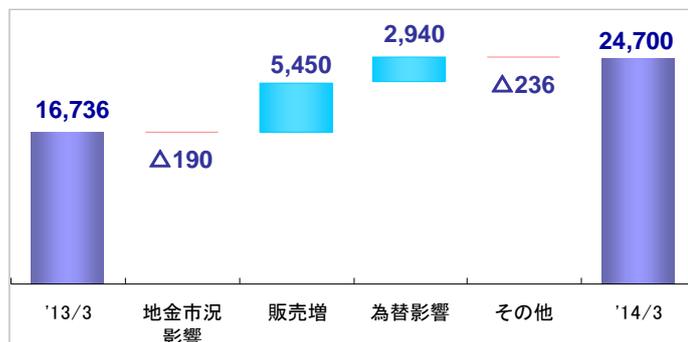


アメリカ、メキシコともに、新規製品の立上げ、又は既存製品の増産により、売上高が増加することを見込む。基本は顧客の情報に基づき売上高を予想。

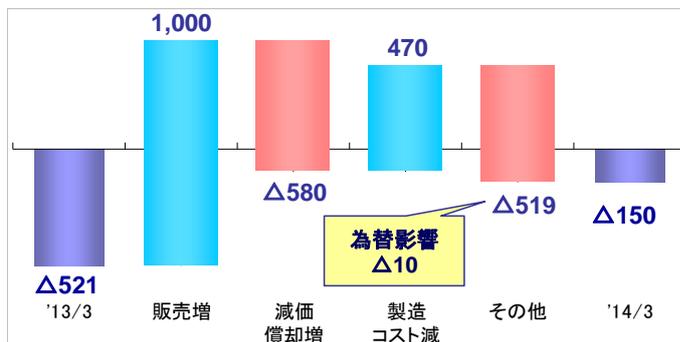
増収による増益効果があるものの、減価償却費の増加(減価償却方法変更の影響含む)の影響が大きく、利益は微増を計画。

# ダイカストアジア

売上高増減予測 (百万円)



セグメント損益増予測 (百万円)



中国及びインドともに、新規製品の立上げ、又は既存製品の増産により、売上高が増加することを見込む。基本は顧客の情報に基づき売上高を予想。

中国では、増収による増益効果があるものの、減価償却費の増加（減価償却方法変更の影響含む）の影響、及びロイヤルティ料率変更の影響が大きく、利益は減少。

インドでは増収による増益効果及び減価償却費の減少（減価償却方法変更の影響含む）、製造コスト削減により、セグメント損失は減少。

## 配当の状況

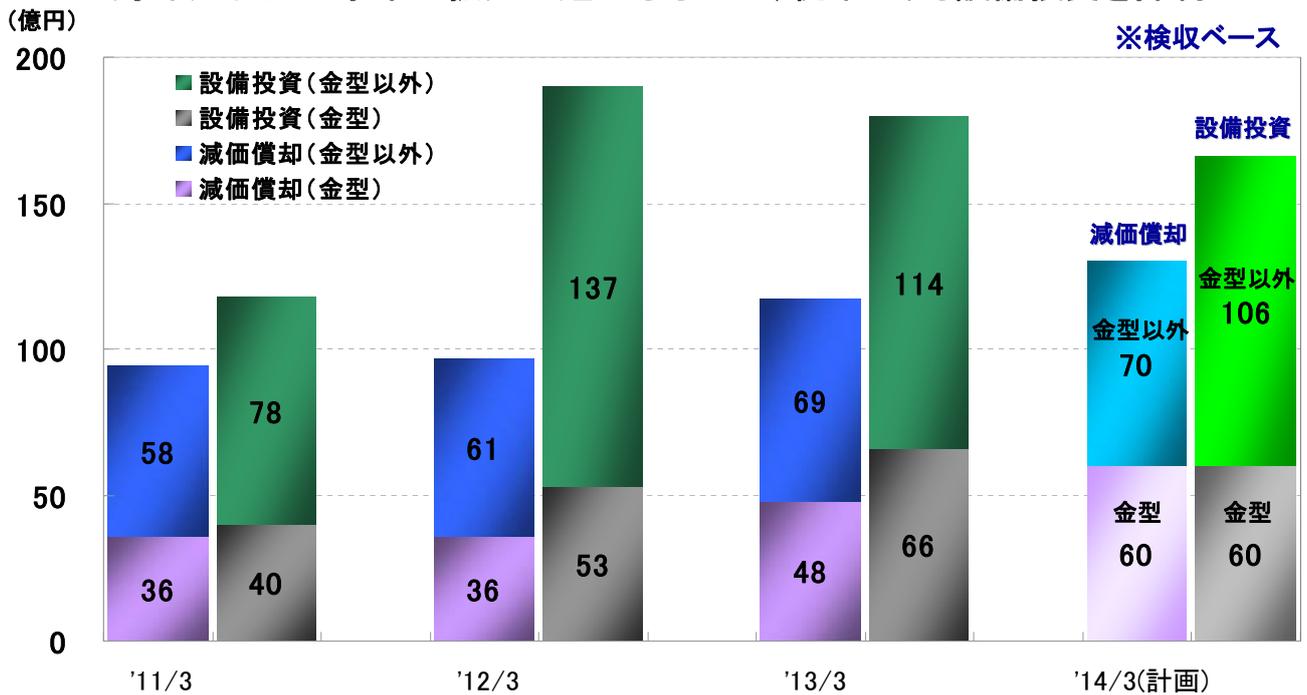
(単位:円)

	10年3月期	11年3月期	12年3月期	13年3月期	14年3月期 予想
1株当たり配当金					
(年間)	5	12	6	3	9
中間配当	-	6	3	3	3
期末配当	5	6	3	-	6
一株当たり純損益(連結)	△ 2.77	68.80	65.87	△ 7.76	127.53
配当性向(連結)	-	17.4%	9.1%	-	7.1%

- ◆ 2013年3月期末配当は、通期業績を勘案し無配を決定。
- ◆ 2014年3月期は、業績を勘案して、年間9円の配当を予想。
- ◆ 配当性向には配慮しつつも、今後の成長を勘案した経営資源の配分を推進

# 設備投資・減価償却の動向

◆海外ダイカスト事業の拡大は進めるものの、従来よりも設備投資を抑制



※20 14/3期より、グローバル化の進展を契機に有形固定資産の減価償却方法を定率法から定額法(金型に関しては生産高比例法等)に変更、並びに耐用年数を使用実態にあわせて変更。これにより従来方法に比べて減価償却費が約8億円減少。

## 中期経営計画(2013—2015年度)



# 1012中期計画の振り返り

## 中期経営計画2010-2012年

項目	実施事項	結果	備考
ものづくりの品質基盤強化	管理技術・固有技術を高める施策と品質不具合の真因追究による源流対策の展開	△	品質システム・顧客満足度・生産性の向上に関して一定の成果が得られた。更なる改善が必要
プロフェッショナル人材の育成	品質教育を始めとした部門別能力クラス別専門教育の再構築と実施、マネジメント・エキスパートの育成、アーレスティウェイの浸透	○	専門教育体系等の基盤整備を完了し、体系に沿った人材育成を実施
グローバル経営システムの構築と展開と周知	グローバル業務標準、技術標準の整備と周知	○	グローバル標準の整備を中心に経営・営業・製造機能の基盤強化の施策を進め、主要な標準類の整備を完了
リスクマネジメント	BCM(事業継続マネジメント)、BCP(事業継続計画)	○	BCMを構築、BCPを策定し推進

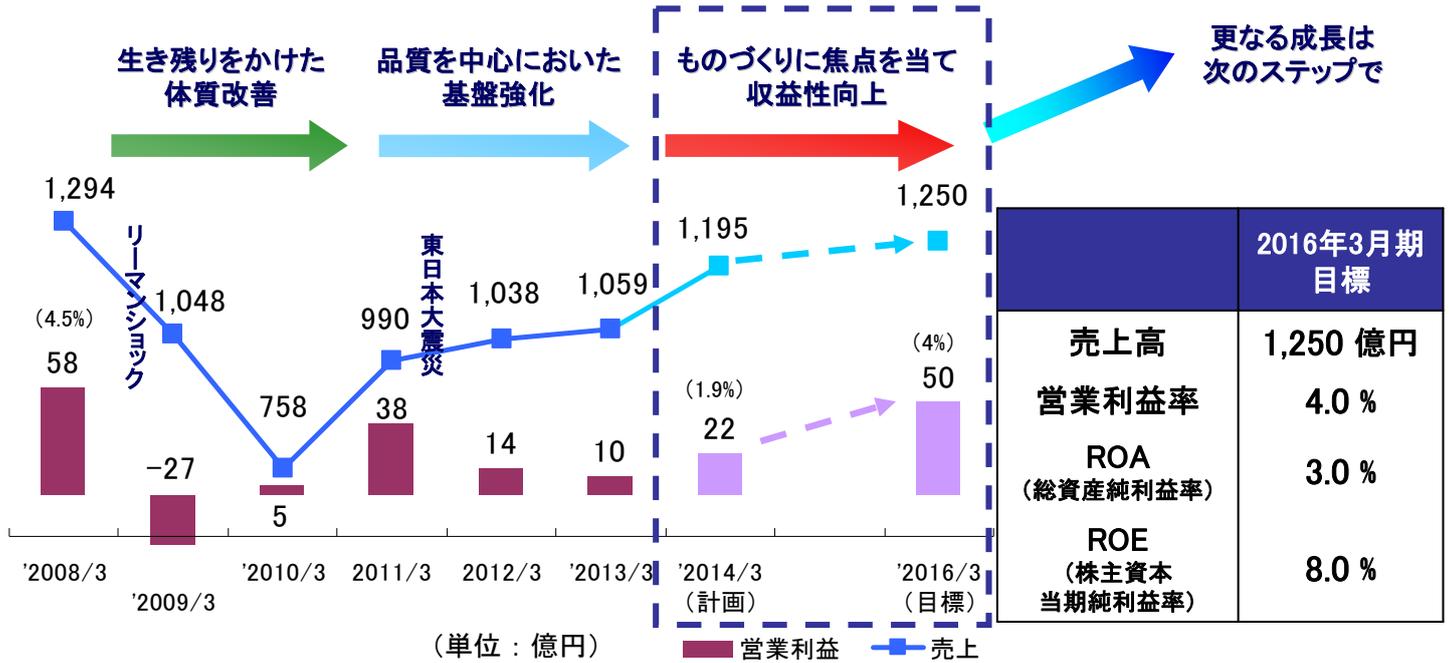
今後の課題: 更なる「ものづくり」の追求と、グローバル需要拡大と国内需要縮小という環境を見据えた効率的な生産体制の確立

# 1315中期計画

## 中期経営計画2013-2015年

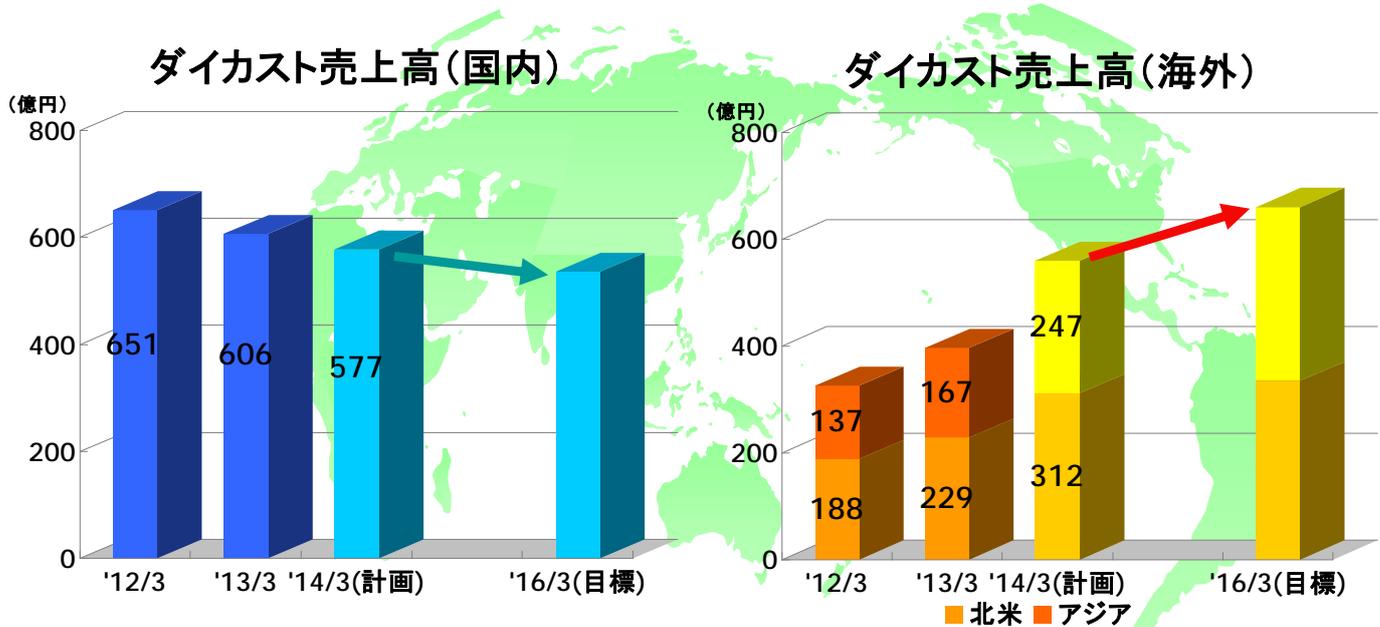
項目	実施事項
最善なものづくりの追求と共有	現場と設計が一体となったものづくりの再構築、全拠点で同一の品質・生産性の実現、生産性の向上等の施策を展開
ものづくりの現場で活かす技術開発	ものづくりを究めるための技術ロードマップにもとづく施策、パワートレイン以外の市場の開拓等の施策を展開
ものづくりを支える人づくり	実践に裏づけされたスキルを持つ人づくり、3現・2原に基づいた活動ができる技術者の育成等の施策を展開
健全な利益追求	収益力向上による持続的な企業成長と成長市場への展開、業務の効率化、投資効率の高い加工設備構想の実現、工程別・課別コストの見える化による収益管理レベルの向上等の施策を展開

# 2016年3月期 目標数値



- ✓ グローバル需要拡大に対応し、中国・北米を中心とした海外ダイカスト事業を拡大
- ✓ 国内需要の縮小を見据えた効率的な生産体制の確立
- ✓ ものづくりに焦点を当てた1315中期計画の推進

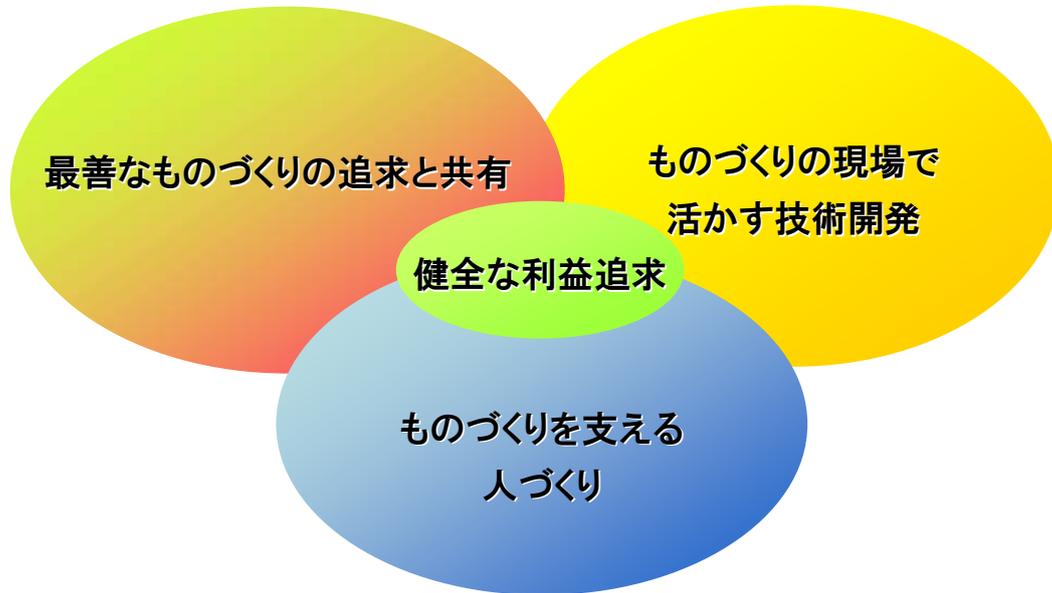
## ダイカスト事業売上高動向



- 日本: 中期的には国内需要は縮小の方向。需要に見合った生産体制として、一定の収益を確保。
- 北米: アメリカの堅調な業績推移を維持しながら需要拡大に対応し、メキシコの生産性を向上させ、投資を抑制しつつ売上を拡大。
- アジア: インド、中国合肥の黒字化を図り、生産性の向上により投資を抑制しつつ、需要拡大に対応。

# 新10年ビジョン

## ダイカストを核としたグローバルTOP企業 「ものづくりを究め、ものづくりを進化させる」



## 株式会社アーレスティ

研究開発・サービス・技術のリーダーを目指して



【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

株式会社アーレスティ 経営企画部 経営企画課 TEL 03-5332-6004

E-mail: ahresty\_MP0\_IR@ahresty.co.jp

URL: <http://www.ahresty.co.jp>

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。